

interview

「香芝の人口は増やせる」

行政改革へ挑む



香芝市長 三橋 和史 氏

現職、元職、新人2人の計4氏の激戦になった香芝市長選が5月19日投開票され、新人で弁護士、元奈良市議会議員の三橋和史氏が制し、初当選を果たした。「これまで香芝で夢を語る政治家がいなかった」と語る就任した三橋市長は、人口減少が前提になっている施策を否定。奈良市議や弁護士の経験を糧に、香芝市に来ることが「目的地になるまち」へ、そして都市計画や高さ制限の緩和で「住むまち」へ、行政改革に挑む。

—香芝市長選に出馬したきっかけは。

私は香芝市立下田小学校を卒業し、香芝市立香芝中学校を卒業させていただきました。その後は、奈良高校へ通わせていただき、また、県庁職員や銀行員など社会人になってからは奈良市に縁があり、奈良市議選に立候補して当選させていただきました。その後、さまざまな経験を経て、子どもの小学校入学が今年4月、子どもを自分のふるさと香芝で育てたいと思い、また夢のために何かお役に立てないかと、1年以上前に香芝へ戻りました。

—前市長、前々市長らも出馬する激戦でしたが、どのような戦略で挑まれましたか。

お2人は市長を務めた経験があり、知名度があります。私も奈良市会議員や弁護士として報道関係で取り上げていたこともありました。やはり知名度という部分で大きな課題がありました。その中でどう挑んでいくか。香芝市政で夢を語る政治家が今までいなかったんです。市の人口が減っていくことを前提とした消極的な施策が目立っていました。その一つが小学校の統廃合問題だったと思います。

—他市町村でも当たり前になっている屋間の役場内消灯も、おかしいと感じて、すぐに改められていますね。

屋休みも働けと言っているわけではありません。職員は交代で休憩をとっています。役場に訪れる方自身の昼休みを利用して、役所側の執務スペースの電気が消えてしまっています。また、その消灯している中で業務をしている職員も、新聞を読んだり、昼食を取っています。節電は大事なことです。節電効果は年間1万円程度しかありません。科学的根拠よりも精神的なものが継続しているように感じ、私は消灯している方が、職員の労働安全法上でも問題があると思う、屋間の消灯をやめ、市役所内のスペースを見直し、しっかり休憩できる場所を確保するまで、改善しました。

—まちづくりをする上で手を入れた部分は。

先に述べた通り、人口減少が前提となった数々の施策がありますが、それを全て修正しています。都市計画に関する考え方も徹底して改める必要があります。現在、市内一部の高度地区31区を私は45区に緩和しようと言っています。マンションでいくと、たいたい10階建てだったものが、15階建てへ

目的不明の規制緩和、目的地になるまちづくり

そこに今までメスを入れる政治家がいなかった。そこを改革して発展を目指すという発想を持った政治家がいなかったわけですね。市街化調整区域の見直しは県によるので、私は先日、山下真知事と伝えていました。市街化調整区域の見直しをしていくような取り組みで、市の発展を目指したいと思っています。

—人口が減るのが前提では出ない発想なわけですね。

そうですね。この都市計画の観点から緩和していいことを、県内でやっている自治体はありません。先進事例として香芝が成功すると、他の自治体もやり始めると思います。もう一つ歴史や文化が多く残る奈良県です。景観上の配慮から、やむを得ない規制を受ける場合もあります。しかし、そういった問題がないような地域については、香芝が先進事例として発展を遂げたあかつきには、香芝の発展が奈良県の発展につながると思います。成果自体は数年でできるような細かい政策ではない大きな計画です。ですが、10年以内には結果を出し始めたいと思っています。

—市内の交通面について。

近鉄二上駅では周辺の開発で乗降客数が増え、県内の急行電車が停まらない駅の中で、最も乗降客数が多くなっています。駅前を発展させ、さらに乗降客数を増やし、行政からお願いだけでなく利点ももっと出したら、近鉄さんに急行電車を二上駅に停めてほしいという交渉をしていきたいと思っています。



県内の急行電車が停まらない駅で最も乗降者数が多い近鉄二上駅



廃止基準を設定したコミュニティバス「カシバス」



スポーツ公園イメージベース

JRについては、朝夕の電車本数を充実していただけていますが、昼間は1時間に一本しか電車が来ません。育児短時間勤務制度を利用している方に始まる時間帯に電車の本数が少なく、高齢者は帰ってこれません。保育園へ迎えに行くのも間に合いません。子育てをしっかりとやりましょうと言っているのですから、やっぱり行政だけじゃなく、子育てしながら働いている人が通勤できるような環境を整えてもらいたい。その中で、JRには一緒に沿線価値向上に向けて頑張る、電車の本数を充実していただけたらいいというお話をさせていただいています。

—公共交通では、カシバスの廃止基準を決められましたね。

見直しの対象になるという意識を持っていただけたらいいです。突然廃止すると伝えるのではなく、廃止を利用可能性もあつと予告する、と、利用していたら頻度を増やしていただければ、路線をより充実させることもできます。乗っていただくことで香芝市の交通がよくなるというところを意識していただきたいと思います。

市では現在、カシバスというコミュニティバスと、コマンドタクシーと両方やっています。このうち、どう考えても競合します。それぞれに役割があるのは分かりますが、公共交通ですから、採算とれないままでも空のバスを走らせてもいいとわけてないため、あり方を見直す必要があり

—目指すまちづくりについて。

市内に大型スーパーも含め、遊べるような商業施設に来てもらいたい。そのためにやはり高さ31

とお願いしました。

市内で高齢化が進んでいて、「免許返納の返納をしてください」と言うだけでなく、交通をしっかりと充実させていく、ひいては民間事業者の参入を目指す、その前段階が公共交通だと思っています。そのためにも運賃が安過ぎるのも問題があります。そんなことをしていたら、民間の新規参入を阻んでいるわけになります。公共交通を維持しながら、より利便性の高い民間の活力が入っていただくように取り組んでいきたいと考えています。

併含めた規制の見直しも、全てに通じていきます。乗降者数が多い二上駅でもロータリーが道路区域になっているのも、駅前がさみしい状況になっています。二上駅から出掛けるのは、二上駅へ遊びに来る。五位堂駅から遊びに行くのではなく、五位堂駅に遊びに来る。市内各駅が、食事や買い物、遊びに行くための出発駅ではなく、目的地になる駅にするのが、私の目指すまちです。また現在、スポーツ公園という位置付けで、市民プールを含めた広範囲の公園施設を作っています。そこに公園だけを作るのではなく、スポーツや観光などでお金が落ちる仕組みにできればとも考えています。

行政改革へ挑む

現職、元職、新人2人の計4氏の激戦になった香芝市長選が5月19日投開票され、新人で弁護士、元奈良市議会議員の三橋和史氏が制し、初当選を果たした。「これまで香芝で夢を語る政治家がいなかった」と語る就任した三橋市長は、人口減少が前提になっている施策を否定。奈良市議や弁護士の経験を糧に、香芝市に来ることが「目的地になるまち」へ、そして都市計画や高さ制限の緩和で「住むまち」へ、行政改革に挑む。



香芝市長 三橋 和史 氏

—香芝市長選に出馬したきっかけは。

私は香芝市立下田小学校を卒業し、香芝市立香芝中学校を卒業させていただきました。その後は、奈良高校へ通わせていただき、また、県庁職員や銀行員など社会人になってからは奈良市に縁があり、奈良市議選に立候補して当選させていただきました。

その後、さまざまな経験を経て、子どもの小学校入学が今年4月で、子どもを自分のふるさと香芝で育てたいと思い、また香芝のために何かお役に立てないかと、一年以上前に香芝へ戻りました。

香芝市は本当に魅力のあるまちです。しかし、行政の役割が果たせていないことにより、本来であれば人口がまだまだ伸び、発展に向けて進んでいかなければいけないまちでしたが、数年前から人口が減り始めています。

やはりそういったところを見て見

ぬふりをするわけにはいかず、私もできる限りの力を発揮し、香芝市の発展を目指すその一翼を担いたいという思いから、市長選に立候補させていただきました。

—前市長、前々市長らも出馬する激戦でしたが、どのような戦略で挑まれましたか。

お2人は市長を務めた経験があり、知名度があります。私も奈良市議会議員や弁護士として報道関係で取り上げていただくこともありましたが、やはり知名度という部分で大きな課題がありました。

その中でどう挑んでいくか。香芝市政で夢を語る政治家が今までいなかったんです。市の人口が減っていくことを前提とした消極的な施策が目立っていました。その一つが小学校の統廃合問題だったと思います。

私は、香芝はまだまだ伸びるまちだと思っていますし、発展させていかなければいけないまちだと思っています。香芝は大阪という大都市圏に最も近く、交通の便でも西名阪自動車道が通り、鉄道の駅が8つもあり利便性の良いまちです。まだまだ発展させていかなければいけないのですが、なぜか他の市町村と同じように、人が減っていく前提の政策を打っているわけです。

市民の皆さんには夢を持っていただきたいと思いました。香芝の明るい未来をともに描いていただきたい。そういう思いで街頭演説をしつかりさせていただきました。そうした発信をすることで、市民の皆さんのご期待をいただいていると思っています。

—当選され、実際に市政へ携わり感じられたことは。

行政ですので、さまざまな分野に

関わっています。その基盤となる行政事務水準をしっかりと上げていくというのが喫緊の課題だと思っています。かなり初歩的な話ですが、個人情報情報の漏えい事件が後を絶たないわけです。うっかりというような、そういった細かな事務さえもできない水準の市役所に、もっと大きい夢のある政策を描けるわけがない、私は考えています。他の部分でも、おかしものは徹底的に是正を行っています。

—他市町村でも当たり前になっている屋間の役場内消灯も、おかしと感じて、すぐに改められていますね。

昼休みも働けと言っているわけではありません。職員は交代で休憩をとっています。役場に訪れる方自身の昼休みを利用して、役所側の執務スペースの電気が消えてしまっています。

また、その消灯している中で業務をしている職員もいれば、新聞を読んだり、昼食を取っています。節電は大事なことです。節電効果は年間1万円程度しかありません。

科学的根拠よりも精神的なものが継続しているように感じ、私は消灯している方が、職員の労働安全法上でも問題があると思います。屋間の消灯をやめ、市役所内のスペースを見直し、しっかりと休憩できる場所を整備するなど、改善しました。

—まちづくりをする上で手を入れた部分は。

先に述べた通り、人口減少が前提となった数々の施策がありますが、それを全て修正しています。都市計画に関する考え方も徹底して改める必要があります。

現在、市内一部の高度地区31区を、私は45区に緩和しようと言っています。マンションでいうと、だいたい10階建てだったものが、15階建て

らいまで可能になるものです。ですが都市計画の部署は「それは必要ありませんか。なかったらやりません」というような話をするんです。

行政の判断として、緩和した場合に景観や交通、環境にどれだけ影響が出るのか、そういった面の調査は必要です。しかし、開発ニーズがあるかどうかを行政が判断する、そういった考え方を直さないといけないと思っています。

資材や人材不足の中で、10階建てまでしか建てられないような土地を開発業者が選んでくれません。香芝を選んだこととして、兵庫など他府県に行ってしまう。行政が足を引っ張って規制をかけている状態で、しかもその規制目的が不明です。その一つが高度地区の高さ規制です。この規制は、県の意見を聞く手続きがありますが、基本的に市の権限で緩和できます。

当然のことながら景観への配慮も検討しながら規制緩和をし、人を呼ぶごむ政策をまずはJR・近鉄五位堂駅前や、近鉄二上駅前ですべていただきたい。近鉄下田駅前は今、高さ20区規制なんです。これも一部を31区に緩和したいと思っています。

—統廃合の対象になっていた小学校については。

志都美、鎌田、関屋の3つの小学校が、統廃合の対象になっていました。これは市街化調整区域で住宅が建てられなくなっています。市街化区域内は若い人も増えているにも関わらず、これについても要は行政が足を引っ張っていると言えます。「子どもの人口が減ってきたため仕方なく統廃合します」と言っている半面、行政が人口の減る政策をやっているわけです。